ベネズエラ情勢（内政・外交：令和６年７月）

１　内政

（１） 選挙キャンペーン開始と与野党の選挙活動

ア　選挙キャンペーンの開始

４日、選挙日程上での選挙キャンペーン開始に伴い、与野党双方が各地で行進を実施。カラカス市内でも道路封鎖を伴う大規模行進が実施され、野党側では２０名を超える逮捕者が出た。

イ　与党の遊説等

（ア）選挙キャンペーン初日の４日、マドゥーロ大統領はスリア州を訪問した後、カラカスに戻り、与党側の行進に参加した。

（イ）６日、マドゥーロ大統領はララ州、及びヤラクイ州で遊説した。

（ウ）マドゥーロ大統領は８日、ミランダ州及びカラカス首都区にて集会を実施した。また、９日、スクレ州及びラ・グアイラ州、１０日、タチラ州及びバリナス州、１１日、カラボボ州及びアラグア州、１２日、スリア州、１３日、ポルトゥゲサ州及びカラボボ州で遊説した。

（エ）マドゥーロ大統領は１５日、ボリバル州、１６日、カラカス首都区、１７日、ララ州、１８日、カラカス首都区及びミランダ州、１９日、スリア州及びファルコン州、２０日、ボリバル州、モナガス州及びアンソアテギ州、２１日アプレ州、バリナス州及びヌエバ・エスパルタ州で遊説した。

（オ）マドゥーロ大統領は２２日、トゥルヒージョ州、タチラ州、メリダ州及びラ・グアイラ州、２３日、コヘデス州、カラボボ州及びアラグア州、２４日、ヤラクイ州、ポルトゥゲサ州及びララ州、２５日、スリア州で遊説した。

ウ　野党の遊説等

（ア）６日、ゴンサレス候補、及びマチャド氏はバリナス州で遊説した。

（イ）７日、ゴンサレス候補は、ポルトゥゲサ州グアナレのコロモトの聖母教会を訪問した。

（ウ）ゴンサレス候補及びマチャド氏は、１０日、アンソアテギ州、１３日、カラボボ州で遊説した。また、１４日に、ベネズエラ中央大学で集会を実施した。

（エ）マチャド氏は１７日、ポルトゥゲサ州、２０日、モナガス州で遊説した。なお、ゴンサレス候補は１７日にマチャド氏と共にポルトゥゲサ州を訪問する予定であったが、風邪により訪問は見送られた。

（オ）１８日、ゴンサレス候補は、大統領選挙に向けた選挙戦略の意見交換のため、ロサレス・スリア州知事と会合した。

（カ）選挙まで残り１週間となった２１日、ゴンサレス候補及びマチャド氏は、カラカス市内広場にて、祈りを捧げるイベント「Mano, tengo fe」を開催した。

（キ）２３日、ゴンサレス候補及びマチャド氏はスリア州で遊説した。なお、同日ゴンサレス候補は、ロサレス・スリア州知事やラミレス・マラカイボ市長他２名の野党側市長との会合を実施した旨、同候補のＸアカウントを通じて発信した。

エ　選挙キャンペーン最終日

（ア）　選挙キャンペーン最終日の２５日、与野党双方はカラカスにおいてそれぞれ集会を実施した。

（イ）　２５日、マドゥーロ大統領は、ビデオメッセージにて、２０３０年に向けた①経済・新たな生産モデル、

②科学・技術・教育・文化、③治安・共存・国家防衛、④社会的均衡、⑤更なる民主主義・人民権力、⑥気候変動との闘い、⑦地政学・人民世界の７分野における変化の計画「７Ｔ」を発表し、平和を維持し、ベネズエラ国民の福祉のために新たな生産経済モデルを構築することであると述べた。

（ウ）　２５日、ゴンサレス候補及びマチャド氏は記者会見を実施し、２８日に投票に出かけること、投票プロセスの監視、票を守ることを目的に投票所付近に留まること等を呼びかけた。、また、記者会見の最後に、①自由、②団結、③合意、④礼儀正しさ、⑤法の支配、⑥再会、⑦緊急性の７つの主要原則を掲げた野党統一プラットフォーム所属政党による民主的政権移行のための合意文書「７月２８日の精神」に署名した。

（２）大統領選挙に向けた全国選挙評議会（CNE）及び与野党の動きや発信等

ア　全国選挙評議会（CNE）は、７月３日付官報を以て、マスコミは全ての候補者に対して公平なインタビューや討論番組への参加の機会を与えること等を規定する「２０２４年大統領選挙に向けた選挙キャンペーン・宣伝にかかる特別規定」を公表した。

イ　１８日、大統領選挙候補者変更・差し替え期間が終了し、１０名の候補者が確定した。

ウ　１９日、ロドリゲス政権側国会議長は、野党側が２８日の大統領選挙の結果を承認しない計画を進めていると非難した。

エ　２０日、ゴンサレス候補の選挙チームは、デルサ・ソロルサノ Encuentro Ciudadano 党党首を、次期大統領選挙における証人として、全国選挙評議会（CNE）に対して指名した。なお、２名の代理証人には、パーキンス・ロチャ・ベンテ・ベネズエラ党法律顧問、フアン・カルロス・カルデラ氏（正義第一党（PJ））が指名された。各候補者の選挙チームが指名する証人は、各投票所から集められた投票結果の集計に立ち合うと同時に、選挙当日に投票所で生じた出来事を全国選挙委員会（CNE 下位委員会）に報告することができる。

（３）野党系市長等を始めとした野党側有力者等によるマドゥーロ大統領への支持表明

ア　８日、グアリコ州フアン・ヘルマン・ロシオ市長が、自身、並びにバリナス州ロハス市、及び同州オビスポ市の野党市長計３名が、マドゥーロ大統領を支持する旨、記者会見にて表明した。右記者会見には、ホルヘ・ロドリゲス政権側国会議長、及びコヘデス州ティナコ市長が同席した。なお、ティナコ市長は Fuerza Vecinal 党選出の野党市長であったが、先月、マドゥーロ大統領への支持を表明していた。同日、バリナス州ロハス市長は、自身の SNS 上で右情報を否定し、ゴンサレス候補への支持を表明する動画を投稿した。

イ　１３日、２０２３年１０月に実施された野党側予備選挙に民主行動党の候補として出馬したカルロス・プロスペリ氏が、マドゥーロ大統領に対する支持を表明した。

ウ　２３日、６月に公職就任資格の停止が確認された８名のトゥルヒージョ州の野党側市長の内５名、Wilmer Delgado モンテ・カルメロ市長、Cervando Godoy マルケス・カニサレス市長、Heriberto Materán Tapia モタタン市長、Francisco Aguilar アンドレス・ベジョ市長、Dilcia Rojas カンポ・エリアス市長が、ゴンサレス候補支持から立場を変更し、マドゥーロ大統領を支持する旨表明した。

エ　２６日、Fuerza Vecinal 党のロドリゲス・ヌエバ・エスパルタ州知事が、自身及び州政府の SNS アカウントにおいて、大統領選挙に向けて州民に対する投票参加の呼びかけを行うと共に、州内で発生した問題に関して今まで政府からは好意的な対応がなされてきた旨言及し、同州知事がマドゥーロ大統領への投票を呼びかけたと報じられた。

（４）大統領選挙直前の情勢

ア　２６日、午前８時から、国内各地の投票所で投票機械の設置が開始されたが、野党側の証人が、右設置が行われる投票所に入ることを禁止される、事前通知無く前日深夜から未明にかけて設置される等、投票機械の設置に立ち会えない事案が多数発生した旨報じられた。

イ　２６日、国軍作戦戦略司令部（CEOFANB）は、２８日に実施されるベネズエラ大統領選挙に関連し、２６日から２９日午前８時の間、コロンビアと国境を接するタチラ州、アプレ州の陸路の国境閉鎖を実施する旨発表した。

ウ　２７日、与党ベネズエラ統一社会党（PSUV）のフレディ・ベルナル・タチラ州知事は、同州にて選挙システムに対するテロ行為を企てていたグループを拘束した旨、自身のＸアカウントを通じて発信した。同発信によれば、タチラ州ウレニャ市に位置する変電所を爆破し、同州を含む国内西部７州への電力供給を停止させる計画であった旨報じられた。同日、複数の州において、国軍が投票会場の警備を担う「共和国計画(Plan Republica)」の枠組みで、騒乱罪や憎悪犯罪等の罪で、国軍が複数の容疑者を逮捕した旨報じられた。

（５）大統領選挙実施

ア　２８日、大統領選挙が実施され、２９日０時０５分、全国選挙評議会（CNE）は記者会見を開催し、アモロソ委員長が、開票率８０%時点で、マドゥーロ大統領が５，１５０，０９２票（５１．２０%）、ゴンサレス候補が４，４４５，９７８票（４４．２０%）を獲得しており、マドゥーロ候補が勝利した旨発表した。

イ　２８日、２０時３０分、選挙結果発表前に、パドリーノ国防大臣は、国軍（FANB）幹部と共に会見を実施し、「いくつかの取るに足らない偶発事件はあったものの、平和的な良い一日であった」と述べた。また、「共和国計画」を８月１５日まで延長する旨発表した。一方、報道によると、各地でコレクティーボと見られる集団による襲撃事件が発生し、タチラ州の投票所前で発生した発砲事件により負傷した１名の死亡が追って確認された。

ウ　２９日０時３０分、マドゥーロ大統領は、大統領府に設置された舞台で勝利宣言を行い、「これからの任期において、ベネズエラの繁栄と成長に向けて必要な全ての変化と変革を進めることを約束する」と発言した。また、今次大統領選挙において、票の集計や速報発表の妨害を試みる者によって企てられた選挙機関の通信システムを狙った大規模なハッキングに苦しめられたが、我々は右行為を命じた者が誰であるのか把握していると述べた。

エ　CNEによる選挙結果発表後に、ゴンサレス候補とマチャド氏は記者会見を実施し、野党側が証書（acta）（投票終了時に各投票機械から印刷される投票結果）の４０%を入手したところ、全ての証書はゴンサレス候補７０%、マドゥーロ候補３０%という得票結果で一致しており、大差でのゴンサレス候補の勝利を示していると主張し、「我々がベネズエラ全土で票を獲得していたにもかかわらず、敗北が発表される事態が発生したことは、世界中、ベネズエラ全土において皆が知っている」と述べた。また、真実を守るために、２９日は自身の投票所付近に留まるよう、国民に呼びかけた。

オ　なお、選挙当日、複数の投票所において野党側の証人が投票所に入れない、ゴンサレス候補が、CNEに対する証人として指名したデルサ・ソロルサノEncuentro Ciudadano党党首、及び代理証人２名についても、集計作業が行われるCNEの施設への立ち入りを拒絶される等の事案が発生した旨の報道やSNSでの発信がなされた。

（６）全国選挙評議会（CNE）による大統領選挙結果の発表及び右結果を巡る与野党の動き

ア　２９日、アモロソ全国選挙評議会（CNE）委員長は、CNE 本部にて、マドゥーロ大統領を今次大統領選挙の勝者として正式に宣言し、同大統領に勝者としての証明書を手交した。

イ　２９日、CNE の勝者宣言の後、ゴンサレス候補とマチャド氏は記者会見を実施し、野党統一プラットフォームが投票台毎の結果が印刷された証書（acta）を、会見時点で７３．２５%入手しており、右証書の結果を集計したところ、ゴンサレス候補が６，２７５，１３０票、マドゥーロ候補が２，７５９，２５６票を獲得し、仮に残りの証書に記載された票の１００%がマドゥーロ候補に投じられたとしても、ゴンサレス候補の勝利は覆らないと発表した。さらに、証書写しをインターネット上にアップロードし、各有権者が自身の投票所の証書を閲覧できるウェブサイトを開設した旨発表し、SNS 等で右サイトのリンクを拡散した。

ウ　３０日、政権側国会は、２８日の大統領選挙を通じた民意の表明を承認し、擁護する合意を全会一致で承認した。

エ　３１日、マドゥーロ大統領は最高裁判所（TSJ）選挙小法廷に出向き、CNE が同大統領の勝利を発表した２８日の大統領選挙に関連する全ての事案について明らかにするよう申立てを行った。

（７）全国選挙評議会（CNE）による大統領選挙結果の発表に関する大統領候補及び経済界からの反応

ア　２９日、ベンハミン・ラウセオ候補は、CNE による選挙結果発表を受けて、マドゥーロ大統領の再選を認め、祝意を表明した。

イ　２９日、アントニオ・エカリ候補、ハビエル・ベルトゥッチ候補、クラウディオ・フェルミン候補、エンリケ・マルケス候補はそれぞれ CNE に対して、選挙の詳細な結果公表を求めた。

ウ　２９日、エンリケ・マルケス候補は記者会見を実施し、選挙当日、CNE の集計会場に自身が指名した証人が入ることができたと説明、同証人の報告によれば、２９日０時過ぎに CNE が発表した開票率８０%時点の結果速報の用紙は、集計会場で印刷されたものではなく、アモロソ CNE 委員長がどこかから持ち込んだものであると告発した。

エ　３０日、ベンハミン・ラウセオ候補は、CNE に対して、可能な限り早急に選挙の詳細な結果を公表するよう求めた。

オ　３０日、ベネズエラ経団連（Fedecamaras）はコミュニケを発出し、CNE に対して証書（acta）の公表を求め、市民社会、国際選挙監視団、選挙に参加した各党の代表者の参加を得た選挙結果の検証を行うことが、民主主義システムのプロセスの信頼性と正統性を保障する唯一の方法であると述べた。また、ベネズエラ工業連盟や国内学術団体等からも、CNE に対して証書の公表を含む選挙結果の詳細を求める声が上がった。

（８）大統領選挙後のデモ・集会等の発生

ア　２９日、CNE が必要情報を開示することなく発表した「マドゥーロ大統領勝利」の結果を不服として、全国各地で抗議活動が展開され、デモと治安当局の衝突により、死傷者、多数の逮捕者が出た。

イ　２９日、ホルヘ・ロドリゲス政権側国会議長は会見を実施し、右派勢力が選挙プロセスを利用して暴力、殺人を働いているとして野党側を批判し、３０日に平和の擁護を目的とした大統領府が位置するミラフローレス地区に向かう大規模な行進を呼びかけた。

ウ　３０日、パドリーノ国防大臣は軍高官同席のもとで会見を実施し、前日２９日からの抗議活動を「極右勢力」による「クーデター」であるとし、国軍は右行為を認めないと発言した。また、同抗議活動において、軍人２

３名及び警察官２５名が負傷した他、アラグア州で軍人１名が死亡した旨報告した。

エ　３０日、ゴンサレス候補とマチャド氏は、カラカス市内にて「Asamblea Popular」と称する集会を実施し、マチャド氏がゴンサレス候補に、野党側が入手した証書を手交した。

オ　３０日、ゴンサレス候補は、自身のＸアカウント上に、国民の憤慨に連帯すると共に、治安部隊に対して選挙で示された民意の尊重と平和的抗議行動への弾圧中止を求める旨のビデオメッセージを掲載した。

（９）野党側関係者等の逮捕・拘束を始めとした政権側の圧力

ア　各州にて、ゴンサレス候補及びマチャド氏の地方遊説に協力した野党支持者が相次いで逮捕されている。NGO「Laboratorio de Paz」が、その他人権関連NGOが実施した調査に基づき発表した数値によると、選挙キャンペーンが開始した７月４日以降、１４日までの間に、ベネズエラ国内では７１件の恣意的拘束事案が発生した。

イ　１１日、サーブ検事総長は、記者会見を開催し、マチャド氏のタチラ州訪問時に宿舎を提供した企業家が、野党側が企てる国内の電力システム対するサボタージュに関与していたため逮捕したと発表した。

ウ　１７日、マチャド氏陣営の警備責任者であるアビラ氏が「ジェンダー暴力」の容疑で逮捕され、翌１８日、月に一回の裁判所出頭を条件に保釈された。

エ　１８日、マチャド氏は、ララ州バルキシメト市に宿泊した際に、同氏が移動のために利用していた車両が政権支持者によって襲撃された旨発信、ゴンサレス候補や野党統一プラットフォーム等が政権に対する非難を表明した。検察庁は、本件は「ベンテ・ベネズエラ」党でマチャド氏の選挙キャンペーン責任者を務めていたマガリ・メダ氏の指示による自作自演であるとして、捜査を開始した旨発表した。

オ　１８日、モナガス州にて、ゴンサレス候補への支持を表明していた労組・政治指導者Regulo Reyna氏が拘束された。

カ　２２日、サーブ検事総長は、ベンテ・ベネズエラ党の党員とされるアントニー・ベガ、ジョン・アルバレス、エレイン・エチャリが、１９日の夜に、イナシオ・ダ・コスタ政権側国会議員に対して暴行を働き、同議員から被害届が提出されたとして、同３名に対して殺人未遂、傷害、共謀罪で逮捕状を請求した旨発表した。

キ　２３日、政治犯の人権を擁護するNGO「Foro Penal」は、ゴンサレス候補とマチャド氏のスリア州での遊説後に、２３名の市民が逮捕されたが、翌２４日、全員の解放を確認した旨発信した。

ク　２４日、サーブ検事総長は記者会見を実施し、CNEが選挙の結果を発表できる唯一の機関であるとして、２８日に実施される大統領選挙の結果を、CNE 以前に発表する人物や団体は捜査・逮捕の対象になると発言した。

ケ　２７日、ゴンサレス候補の選挙チームであるComando con Venezuelaは、同チームのミランダ州ロジスティック責任者であるHumberson Lopez氏他１名が、内務司法省諜報局（SEBIN）によって逮捕された旨発信した

コ　２９日、サーブ検事総長は記者会見を実施し、CNEが発表したマドゥーロ大統領を勝利とする結果を認めない者、暴力行為を行う者に対して、禁固３年から６年の刑に処する旨発表した。また、検察庁は、選挙結果を変える目的で、CNEのシステムを攻撃した容疑で、野党関係者マチャド氏、レオポルド・ロペス氏、レスター・トレド氏に対する捜査を開始したと述べた。

サ　３０日、フレディ・スペルラノ大衆意志党（VP）コーディネーター及び同氏の運転手が、治安組織と見られる黒服を着用した集団により、自宅の駐車場前で突如連れ去られる事案が発生した。右に伴い、VPは、同党関係者が連れ去られたことを告発する旨「X」アカウント上で発信した。

シ　３０日～４日にかけて、アラグア州、カラボボ州、ヌエバ・エスパルタ州等、全国複数の州で、ベンテ・ベネ

ズエラ党、VP、正義第一党（PJ）、Encuentro Ciudadano 党の関係者等の相次ぐ逮捕や、ベネズエラを出国しようとしていた人権活動家の旅券取消等が報じられた。

ス　３０日、サーブ検事総長は記者会見を実施し、前日２９日の抗議活動に関連して、記者会見実施時点までに、テロ行為及び憎悪扇動等の容疑で７４９人を逮捕した旨発表した。

セ　３０日、３月に逮捕命令が出されたベンテ・ベネズエラの党員が身を寄せている在ベネズエラ・アルゼンチン大使公邸の電気が停められた旨報じられた。

ソ　３０日、ヌエバ・エスパルタ州のラモン・ディアス元マルカノ市長が、２９日の抗議活動に関連して逮捕された旨報じられた。

タ　３０日、ホルヘ・ロドリゲス政権側国会議長は、同国会の審議中に、ゴンサレス候補及びマチャド氏が暴力を生じさせ国を不安定にしているとして、両者が逮捕されるべきであると発言した。同審議中、ディオスダド・カベージョ・ベネズエラ統一社会党（PSUV）第一副党首も、ゴンサレス候補及びマチャド氏に加え、レオポルド・ロペス氏、フリオ・ボルヘス氏、エンリケ・カプリレス氏等の野党指導者の名前を挙げて、これらの者は当局から最大級の罪で訴追されるであろうと発言した。

チ　３０日、マドゥーロ大統領は、「国家の不安定化・崩壊を狙った極右勢力による世界規模の攻撃に立ち向かうこと」を目的に、国家評議会、国家防衛評議会を招集した。同会合にて、マドゥーロ大統領は、国内各地で発生した抗議活動は、米国等の国外勢力の支援を受けてゴンサレス候補及びマチャド氏が主導している「テロ行為」であるとし、右に対応するために、①中露の支援を受けたサイバーセキュリティ評価のための特別委員会始動、②「comanditos」（マチャド氏を中心としたゴンサレス野党統一候補の選挙チーム「Comando Con Venezuela」の、国内各地のそれぞれの投票所等、地区単位でゴンサレス候補の選挙活動を支える協力者の部隊が「comanditos」と呼ばれている）による被害者への支援を目的とした１千万米ドルの基金設立、③攻撃、憎悪、プレス・SNS を通じた暴力から世論を保護するプロセスを国会が進めるための特別委員会設置、④国軍及び警察が街頭・地域の巡視・保護を行うプロジェクトを進めるための特別計画展開、⑤「comanditos」によるファシズム的暴力の被害者のための政府・検察特別合同委員会設置、⑥アプリケーション「VenApp」を通じて犯罪集団に関する告発を匿名で行うことができるシステムの構築から成る６つの提案を行った。

ツ　３１日、スリア州のモスケラ・ラグニージャ市長が、同市長が政権批判を行ったとされるメッセージが SNS 上で拡散したことに関連して逮捕されたと報じられた。

テ　３１日、サーブ検事総長は会見を実施し、２９日の抗議活動に関連して１０６２人を逮捕した旨発表し、１５～２０年の懲役が課される可能性に言及した。また、同検事総長は、抗議活動の現場にはいたものの、活動に参加していなかったことが証明された者は釈放されるとの見解を示した。

（１０） その他

ア　１日、マドゥーロ大統領は、自身のテレビ番組にて、高齢者省（Ministerio del Poder Popular de Abuelos y Abuelas de la Patria）を設立し、ラファエル・アントニオ・アルゴッティ・デルガド氏を同省大臣に任命する旨発表した。

イ　５日、独立記念日に際し、マドゥーロ大統領は軍事パレードを実施し、本年のパレードには、約４０名のロシア軍人も参加した。また、ゴンサレス候補は、独立記念日に際するビデオメッセージを発出した。

２　外交

（１） 大統領選挙実施及び結果発表までの諸外国の動向・反応、並びに政権・野党の対応等

ア　１日、マドゥーロ大統領は自身のテレビ番組で米国との対話再開を発表。３日、米国政府との間でオンラインでの対話が実施され、ベネズエラ側からは、ホルヘ・ロドリゲス政権側国会議長、エクトル・ロドリゲス・ミランダ州知事が出席。ロドリゲス議長は、今次対話の結果、両国は、①信頼を構築し、関係を改善していくために、協同していく両国政府の意思、②相互尊重に基づく建設的な方法でのコミュニケーション維持について合意したと報告した。

イ　１０日、ヒル外相は、外交団説明会を開催し、最近ベネズエラにおいて、選挙プロセスの妨害を試みる極右勢力の動きが見られるとの説明を行った。

ウ　１７日、パナマ、ドミニカ共和国、コスタリカ、エクアドル政府が連名で、透明、自由、平和、包摂的な選挙が、ベネズエラにおいて民主主義の安定、持続可能な発展、社会的平和への理想的な道であるとして、ベネズエラ政府に対して米州民主主義憲章及びバルバドス合意の遵守を呼びかけるコミュニケを発出した。

エ　１９日、アルゼンチン、コスタリカ、グアテマラ、パラグアイ、ウルグアイ政府が連名で、ベネズエラ大統領選挙に関連して、野党関係者に対する恣意的な逮捕を含む野党指導部及び野党支持者への迫害に関する懸念を表明し、ベネズエラ政府に対して、野党側への迫害を直ちに止めて、政治犯の解放を求めるコミュニケを発出した。

オ　２２日、ルーラ・ブラジル大統領は、マドゥーロ大統領が選挙集会において、自身が選挙で敗北した場合、ベネズエラは「血の海」になる可能性があると発言したことに関して、右発言には驚いたとして、マドゥーロ大統領は、選挙に勝利すれば権力に留まり、敗北すれば立ち去るということを学ぶ必要があると言及した。

カ　２６日、マチャド氏は、ラカジェ・ポウ・ウルグアイ大統領、ペニャ・パラグアイ大統領、ミレイ・アルゼンチン大統領と、翌２７日にはメツォラ欧州議会議長とそれぞれ電話会談を実施した旨、自身のＸアカウントで発信した。

キ　２７日、ゴンサレス候補とフェルナンデス元ドミニカ共和国大統領の間で会合が実施され、同元大統領は自身のＸカウントで、ベネズエラ国民のために選挙プロセスが平和裏に終了するよう、コミュニケーションを維持し、次のステップをフォローしていくことで合意したと発信した。

ク　２７日、ムリージョ・コロンビア外相は、同国外務省のＸアカウントに動画を掲載し、大統領選挙が平和裏に実施され、結果が尊重されるようベネズエラの関係機関に要請し、また、選挙の勝者が、その他の政治関係者の権利を保障するように呼びかけた。

ケ　２８日、選挙結果発表前に、アルゼンチン、コスタリカ、エクアドル、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ドミニカ共和国の外相は連名で、「ベネズエラにおける大統領選挙に関しては、ベネズエラ国民が投票を通じて表明した民意の尊重が、選挙結果上で保障されることが必要不可欠であり、右は立会人、全候補者の代表が確認・監視することができる透明性のある開票作業によってのみ実現可能である」と表明するコミュニケを発表した。右に対し、同日ベネズエラ外務省は、「（右宣言は）本日ベネズエラにおいて平和裏に表明された代表を選出するという権利を遂行した市民の精神を損なうものである。（ベネズエラにおいては）透明性が高く、確実且つ侵害することができないシステムを通じて、選挙人、票の原則が完全に保障されている」旨コミュニケを発出した。

（２）大統領選挙の結果に関する２９日以降の各国・機関の反応

ア　米国、パナマ、ペルー、コスタリカ、ウルグアイ、エクアドル等は、ゴンサレス候補が次期大統領、または同候補が大統領選挙の勝者であるとする趣旨の声明等を発出した。

イ　EU、カナダ、英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポルトガル、オランダ、ベルギー、チェコ、オーストラリア、チリ、ブラジル、コロンビア、グアテマラ、メキシコ、パラグアイ、ドミニカ共和国、アルゼンチン等は、選挙プロセルの透明性確保を求め、証書（acta）の公表を含む選挙結果の詳細公表等を要請する声明等を発出した。

ウ　中国、イラン、ロシア、ボリビア、キューバ、ホンジュラス、ニカラグア、セルビア、シリア、ドミニカ国、セントビンセント及びグレナディーン諸島、ベトナム、ジブチ等はマドゥーロ大統領への祝意を表明した。

エ　３０日、日本外務省は、大統領選挙に関して、投票結果の信頼性を裏付ける上で必要なすべての情報が公表され、大統領選挙プロセスの透明性が確保されることを求める旨、報道官談話を発出した。

オ　３０日、ヒル外相は、Lan Hu 駐ベネズエラ中国大使から、大統領選挙の結果に関する習近平中国国家主席からマドゥーロ大統領に対する祝意を伝達する文書を受け取った。

カ　３０日、ブラジル大統領府はプレスリリースを通じて、バイデン米大統領とルーラ伯大統領が電話会談を実施し、右会談の中でベネズエラ情勢においても言及され、両大統領が証書（acta）の公表の必要性につき同意した旨発表した。

キ　３１日、G7 は外相声明を発出し、今次大統領選挙の結果及びプロセスに対する懸念を表明、関連の代表者に対し、ベネズエラの法律に従って詳細な選挙結果を完全な透明性をもって公表するよう求めた。

ク　３１日、米州機構（OAS）は、今次大統領選挙プロセスに関する緊急会合を開催し、マドゥーロ大統領に対して、大統領選挙の開票結果の公表を求める決議案に関して議論、投票が行われた結果、賛成１７票、棄権１１票、欠席５票で否決された。

（２）国際選挙監視団・立会人等

ア　２８日の大統領選挙に向けて、諸外国・機関からの選挙監視団・立会人がベネズエラを訪問し、政府関係者等と会合等が以下のとおり実施された。

（ア）９日、ヒル外相は、２８日の大統領選挙監視のために当地訪問中の国連専門家パネルとの会合を実施した。

（イ）１２日、ゴンサレス候補は、当地訪問中の米カーターセンター選挙監視団と会合した。

（ウ）２２日、パドリーノ国防大臣及びラレス国軍作戦戦略司令部（CEOFANB）司令官は、米カーターセンターの代表団と会合を実施した。

（エ）２４日、ヒル外相は、中国及びアフリカ連合からの選挙監視団、フェルナンデス元ドミニカ共和国大統領、サンペール元コロンビア大統領、並びにモハマド・マレーシア農業・食料安全保障大臣とそれぞれ会合を実施した。

（オ）２６日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、国際選挙監視団・立会人への歓迎イベントを実施し、１００か国から８００人以上が参加した旨の発表がなされた。右イベントにはヒル外相も同席した。

（カ）２６日、ヒル外相は、トルコからの選挙監視団、アモリン・ブラジル外交問題特別顧問、セヤラ元ホンジュラス大統領とそれぞれ会合を実施した。また、同日、ヒル外相は別途、選挙監視団・立会人を集めて、ベネズエラの選挙制度は、自動化され、検証可能で、透明性があり、信頼できるものであり、選挙の専門家から世界で最も進んだ、安全なシステムの一つと評価されている旨の説明を行った。

（キ）２７日、マドゥーロ大統領は、国際選挙監視団・立会人を集めた集会を実施した。右集会にはデルシー・ロドリゲス副大統領、ヒル外相も同席し、１００か国以上から９１０人の招待者が参加した旨の発表がなされた。

イ　一方で、以下のとおり、選挙監視団・立会人としてのベネズエラへの訪問がキャンセルされる例が発生した。

（ア）２４日、フェルナンデス元アルゼンチン大統領は、自身のXアカウントにて、CNEから立会人として招待を受けていたベネズエラ大統領選挙に関して、ベネズエラ政府から、同国訪問を取りやめ、立会人としての役割を放棄するよう依頼されたとし、ベネズエラへの訪問を中止する旨発信した。同元大統領は、本件に先立って、アルゼンチンのメディアからインタビューを受けた際に、「選挙に敗北した場合はそれを受け入れなければならない、勝者は勝利し、敗者は敗北する、それが民主主義である」と発言したことが、ベネズエラ政府の反感を買ったと考えられると発信した。

（イ）２４日、ブラジル選挙高等裁判所(TSE)は、２３日にマドゥーロ大統領が選挙キャンペーン中に「ブラジルでは（ベネズエラとは異なり）投票が監査されていない」と発言したことに伴い、ベネズエラでの選挙監視のために派遣を予定していた専門家２名の派遣を取りやめる旨コミュニケを通じて発表した。（ウ）報道によると、２４日、コロンビア政府は、ベネズエラ大統領選挙への監視団派遣を見送り、ムリージョ・コロンビア外相も同機会にベネズエラを訪問しない旨決定した。

ウ　２７日、野党統一大統領候補キャンペーンチーム「Comando con Venezuela」は、同チームが招いた５１名の招待者の多くが国外退去処分にされたと、非難声明を発出した。同声明によれば、国外退去処分を受けた招待者の中には、キロガ元ボリビア大統領、フォックス元メキシコ大統領、ロドリゲス元コスタリカ大統領、モスコソ元パナマ大統領、ラミレス前コロンビア副大統領や、欧州議会議員、スペイン、南米諸国の国会議員等が含まれていた。なお、２６日、上記元大統領の一団が、パナマからベネズエラに向かう飛行機に搭乗したところ、ベネズエラ航空当局が着陸許可を出さず、やむなく降機したことが報じられていた。

エ　大統領選挙実施直後の国際選挙監視団・立会人の主な動きは以下のとおり。

（ア）２９日、カーターセンターは、CNEに対して、大統領選挙の投票結果を、投票台毎の結果を含めて即時に公表するよう要請するプレスリリースを発出した。

（イ）３０日、国際選挙立会人としてベネズエラを訪問したフェルナンデス元ドミニカ共和国大統領及びサンペール元コロンビア大統領は連名のコミュニケを発出し、CNEが大統領選挙プロセスの透明性を確保するために、全ての証書（acta）を公表することを推奨した。

（ウ）３０日、カーターセンターは、「ベネズエラの２０２４年大統領選挙は、選挙の完全性にかかる国際基準を満たしておらず、民主的とは言えない」と題する声明を発出した。

（３）大統領選挙以降の外交関係断絶・外交官国外退去及び航空便の停止等

ア　２９日、ベネズエラ政府はコミュニケを通じて、アルゼンチン、チリ、コスタリカ、ペルー、パナマ、ドミニカ共和国、ウルグアイに駐在するベネズエラ外交官の引き揚げ、並びにこれらの国の駐ベネズエラ外交官の国外退去を発表した。

イ　２９日、ベネズエラ運輸省はコミュニケを通じて、パナマ並びにドミニカ共和国との直行便を、３１日午後８時以降一時運行停止する旨発表した。

ウ　３０日、ベネズエラ政府は、ゴンサレス候補を今次大統領選挙で選出された次期大統領として承認するとのペルー政府発表に伴い、ペルーとの外交関係断絶を発表した。

エ　３１日、ベネズエラ航空当局は、ベネズエラ・ペルー間の航空便運航の一時停止を決定した。

オ　３１日、アルゼンチン外務省はプレスリリースを通じて、ベネズエラ政府の通告によって同国外交官がベネズエラから引き揚げることに伴い、ブラジル政府がアルゼンチン政府からの要請に応じて、ブラジルがベネズエラにおけるアルゼンチン大使館、公邸等の管理、並びにベネズエラ在住のアルゼンチン国民の利益保護を担う旨発表した。

（４）大統領選挙以降のベネズエラの人権状況に関する国際社会の反応等

ア　２９日以降、特に今次大統領選挙プロセスに疑義を表明している、または選挙結果の詳細公表を求めている各国・機関等を中心に、ベネズエラにおける暴力的事態の進展等への懸念や、関係者に自制を求める声明等が相次いで発出された。

イ　３０日、トゥルク国連高等人権弁務官は、ベネズエラにおいて、大統領選挙以降の抗議活動で多数の逮捕者が出ており、治安当局や武装集団コレクティーボによる暴力等に関する報告を受けているとし、ベネズエラ情勢の緊張の高まりに対する懸念を表明した。

ウ　３０日、アンドレ・コスタリカ外相は、同国政府はゴンサレス候補及びマチャド氏に対して、政治亡命を受け入れる用意がある旨のビデオメッセージを公表した。右に対し、マチャド氏は感謝を示しつつ、自身はベネズエラに残り戦いを続ける旨発信した。

エ　３１日、国連事実調査団（FFM）はプレスリリースを通じて、大統領選挙後のベネズエラにおける人権侵害に対する深刻な懸念を表明した。

（５）要人往来・電話会談等（大統領選挙関連以外）

ア　１日、ヒル外相は、ムリーノ大統領就任式出席のため、パナマを訪問した。

イ　５日、ヒル外相はメキシコを訪問し、バルセナ外務大臣との会合、エブラル次期経済大臣との会合、メキシコ市内のシモン・ボリバル像前でのベネズエラ独立記念日式典への出席等を実施した。バルセナ外務大臣との会合においては、メキシコ・ベネズエラ二国間委員会の再開をはじめとする、地域に資する合意を達成することを目的に、特にエネルギー、政治、教育、移民・人の移動に関する協議が行われた由。

ウ　８日、ヒル外相は、ロナルド・ラモラ南アフリカ国際関係・協力相と電話会談を実施し、二国間の協力拡大に関して協議した。

エ　９日、マドゥーロ大統領は、５日に実施されたイラン大統領選挙で勝利した、ペゼシュキアン・イラン次期大統領と電話会談を実施、ペゼシュキアン次期大統領に対して祝意を伝達し、両国の協力関係を再確認した。

オ　１０日、マドゥーロ大統領は第１０回 ALBA-TCP 特別首脳会合にオンラインで参加し、ボリビアでのクーデター未遂事件に関して言及しつつ、アルセ大統領並びにボリビア政府の対する支持を表明すると同時に、平和、安定、発展の道を強化していく旨述べた。

カ　１４日、ロマン・ゴロフチェンコ・ベラルーシ首相が中南米外遊の一環でベネズエラに到着した。

キ　１５日、マドゥーロ大統領は、ベネズエラを訪問したゴロフチェンコ・ベラルーシ首相と会談を実施し、両国の経済・社会分野での協力に関して協議した。同日、ゴロフチェンコ首相はデルシー・ロドリゲス副大統領、メネンデス企画担当副大統領兼企画大臣、及びヒル外相とそれぞれ会談を実施、今後１０年間の二国間協力に関するロードマップ作成等に関して議論した。

ク　１９日、ヒル外相はニカラグアを訪問し、サンディニスタ革命４５周年記念式典に出席した。ヒル外相は、同

１９日にヴャチェスラフ・ヴォロージン露国家院議長と挨拶を交わし、２１日、オルテガ・ニカラグア大統領、ムリージョ同副大統領と会談を実施した。

ケ　２４日、マドゥーロ大統領同席の下、テレチェア石油大臣兼 PDVSA 総裁とベネズエラを訪問中のヤング・トリニダード・トバゴ・エネルギー大臣は、ガス田開発の共同プロジェクトを推進するための合意文書に署名した。

（６）その他

ア　３日から６日にかけてロシア海軍艦艇２隻が、カラカス近郊のラ・グアイラ港に寄港。７日、パドリーノ国防大臣は、自身の「X」アカウント上で、今次寄港は、両国間の友好関係強化を目的としたものであった旨発信し、停泊する艦艇、並びにロシア軍人の姿を映したビデオを共有した。

イ　８日、ヒル外相は、アルベルト・オルテガ・マルティン駐ベネズエラ・バチカン大使、及びシルバナ・モンテス・デ・オカ駐ベネズエラ・ウルグアイ大使から、信任状の写しを提出された。

ウ　１３日、マドゥーロ大統領、並びにゴンサレス野党統一大統領候補は、同日発生したトランプ米大統領候補襲撃事件をそれぞれ非難した。

エ　１６日、本年６月にマドゥーロ大統領が創設を発表した祖国帰還「大ミッション」の枠組みで、メキシコから２６１人のベネズエラ人移民を乗せて到着した第１便を、ヒル外相等が出迎えた。

オ　２３日、ベネズエラ外務省は、プーチン露大統領が、デルシー・ロドリゲス副大統領及びサラサル駐露ベネズエラ大使に対して、ロシア連邦友好勲章を授与する政令に署名した旨のプレスリリースを発出した。

カ　２６日、ベネズエラ政府は、２２日にエチオピアのゴファで発生した地滑りにおける人命の損失に関して、弔意と連帯を表明するコミュニケを発出した。